



古今
圖畫

發句五百題

春



通



東京

定訓堂藏

古今
音画
其
著
尚
五百題

全
冊

其
角
為
水
紙
雪
中
看
梅
年
編輯

夜

晴

樂

方集春河部

古今國史及白五音題言
能向之矣以極櫻之春
色若自吉江都第以東
來者乃自新公言家惟
見在系不知以中者

有之吐句以分新為
新矣永梅二宗
百有學之因之此者
蓋欲使志意逐袖携
枕藉嘗句讀力盡

尺古江之繁而亦去之
東京之學未竟而亦
其句也二宗逐與余
為相淺因請新著
并宜余亦不敢

子也
 子也
 子也
 子也
 子也



花亭書



例言

一 此集はわが世に於ては、
 影流するが故に、
 下より佛生を極むるを以て、
 七夕に魂をうつりて、
 一 影を寫すの用は、
 新影を寫して、
 一

此一布をきくころの世の一度は影をささるにあら
且他例成るべし一集中国策の骨の疼
りありし海國を備る者のけり快ありしもの
をんをきく他者も堪ちし所あり
一書先哲自門他の如く備るに難い事候を
りて著記せしむるに如く和歌撰集候に如く
とるものこ

一風通りの時代へ下りしつゝ勢をきく不易候
りし二ツ城をきく河原のうに候はれ陳廢に
よき向の向只のうに候しめしむるに候りれ

いさゝか愚言を聞かざるに候はれ流りに候は
不易に候る今日の不易を明日に候り候
候とてその如きに候り

一多く新報をきく廢る候とて生かすに
候るに候るに候るに候るに候るに候るに
候るに候るに候るに候るに候るに候るに
候るに候るに候るに候るに候るに候るに

一幾句五百報と報をきく号さるゝ原み
秋の月より候候候候の如候候候候候
の如候候候候候候候候候候候候候候

あんなに...
かきり

一内...
...
...
...
...
...
...

發句五百題目録

一月三部 晩冬季

一月	正月	春の巻	初日	四方様
一日	元日	新年	初年	初年
日の始	年の巻	初吉	初日	初日
初鰯	初うなぎ	若水	初手	初手
初夢	獲枕	元始	世様	世様
二十日	白馬命	春初	初唐	初唐
若方	初うなぎ	門松	鏡餅	鏡餅
門かきり	蓬餅	喰つこ	鏡餅	鏡餅

子の日	数の子	海軍始	破戸弓	藤軍	甥海老	玉	年男	大福	店別色
水祝	雀の糸	茶才	雀の羽子	担公	三つ物賣	喜道女	右惣	福	田代
初吉居	初寅	福引	嫁ぐ者	傀儡師	羊餅	綿の志	福寿州	原種	小殿系
人日	小松曳	福々々	子籠	有馬	魚虫文	所障	年礼	新茶	乙中女

余空	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
河魚子	晴月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
祈年祭	立春	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
紀元節	追分	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月

二月 - 部 春季

出	之	温	等	新	糖	喜	候	雪	雪
代	月	染	梁	粉	梅	面	空	空	空
蜡	盤	積	積	水	土	土	土	土	土
合	部	塔	塔	初	梅	梅	梅	梅	梅
輪	右	柴	柴	初	紅	紅	紅	紅	紅
	燈	燈	燈	午	梅	梅	梅	梅	梅
曲	白	西	西	舞	折	折	折	折	折
水	酒	行	行	舞	二	二	二	二	二

三月三日

粉	氣	者	雪	得	香	接	酒	綴	綴
り	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
香	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題
雲	暖	深	吟	所	雀	木	雲	題	題

椽	四椽	椽	削
字解	終岸	人凡忘	壬生淨
活影修	其角五		

四月之部

四	月	除	生	神	武	系	沙	丁
貝	上	世	若	器			厚	朴
引	勢		明	の	峰		喜	の
招	乃	也	多	み			喜	の
喜	の	膏	別	雲	麦	勢	海	棠
梨	の	子	山	次	連	翹	辛	夷

帛	杖	尋	根	子	片	卜	福	活
七	上	乃			松	菜	四	氣
種	荷	苗	代	水	口	象	埤	
蚤		若	船	初	附		柳	鏡
奴	坊	馬	刀	蘇			落	南
孛	葱	潼	佛	佛	生	夸	落	淨
種	芽	葉	橘	葉	橘		奴	塞
行	喜	長	濟	喜	海	歌		



春
日
静
和

一
日

日影影此のついでに... 静和
 我富のついでに... 春湖
 四方静和... 静和
 一日は... 花夕
 一日は... 雨石
 一日は... 思文
 一日は... 連鳥
 一日は... 逸風
 一日は... 思雪
 一日は... 壽守
 一日は... 詢堯齋

元日
新年
初年

一日のまはらふよふたの暮るは
 一日のまはらふ言葉の輝くとき エチコ
 一日のまはらふしるしの移る カツサ
 一日のまはらふ豊りの町つとき
 元日や大樹ののり人の人
 新しき年の白ひや松栢抄 サト
 移るの新年のまはらふ君華疏
 新年のまはらふたんや
 新しき年のまはらふ門の雪
 新年のまはらふ河のまはらふ
 のまはらふまはらふまはらふ
 竹 范笑更
 蓮州
 云亭
 松民
 孝節
 碧海
 斧刪
 白雄
 碧海
 可都良
 環水
 望仙

予雲
 猶蟻 イナハ
 敏樹
 孝節
 全 ムサシ
 梅朋
 涼風
 通義 トホクミ
 梧堂 上州
 云亭
 三千代 チクコ
 黙平

日の始
葉の花

初日
初室

雪は白く〜の初め玉の道 等裁
 初年の風は〜なる古き〜 梅年
 兄は〜も高き松の園の日は始 竹良
 都より白ひけ〜雪の春の春 春湖
 鳥の人の言葉に〜鳥の春の春 鳥牙
 鳥の日は只一編や〜松の春 永機
 初志の是も〜松の春の春 如竹
 初鳥は群り〜雪の春の春 遠塵
 雪の物回〜松の初日の初日 英
 一雪は〜の春の初日の初日 蓮州
 雪の春の思〜松の初日の初日 孝節
 願〜の春の初日の初日

初鳥
初鶯

雪は白く〜の初め玉の道 芥 刪
 雪は白く〜の初め玉の道 一 聲
 雪は白く〜の初め玉の道 梅 伍
 雪は白く〜の初め玉の道 花 月
 雪は白く〜の初め玉の道 鳳 朗 子
 雪は白く〜の初め玉の道 思 文
 雪は白く〜の初め玉の道 有 川
 雪は白く〜の初め玉の道 梅 城
 雪は白く〜の初め玉の道 松 月
 雪は白く〜の初め玉の道 精 知
 雪は白く〜の初め玉の道 收 之
 雪は白く〜の初め玉の道 静 和

羽さきたる梅樹ふりてまの鶉
ヲハリ 機月
 羽さよの梅樹ふりてまの鶉
エツ中 來杖
 心地よき枕をぬれぬまの鶉
ヲハリ 遊甫
 くるまぬれぬぬの鶉まの鶉
武飯能 可洗
 初アの書んまの鶉まの鶉
エチコ 蛙水
 まさけし鳥まの鶉まの鶉
エチコ 木寶
 ままの鶉まの鶉まの鶉
因シウ 春澣
 一初を鶉まの鶉まの鶉
エチコ 華谷
 初鶉の鶉まの鶉まの鶉
エチコ 鳳樓
 二日あり鶉まの鶉まの鶉
イナハ 袖九

若水

若水の若水二羽若水二羽初鶉
エチコ 霞香女
 若水の若水二羽若水二羽初鶉
エチコ 機月
 若水の若水二羽若水二羽初鶉
エチコ 雲臺

初子水

初子水の初子水初子水初子水
エチコ 鳳齋
 初子水の初子水初子水初子水
エチコ 雲臺

初鶉

初鶉の初鶉初鶉初鶉
エチコ 蕙畝
 初鶉の初鶉初鶉初鶉
エチコ 雲臺

鶉枕

鶉枕の鶉枕鶉枕鶉枕
エチコ 松月
 鶉枕の鶉枕鶉枕鶉枕
エチコ 雲臺

元始

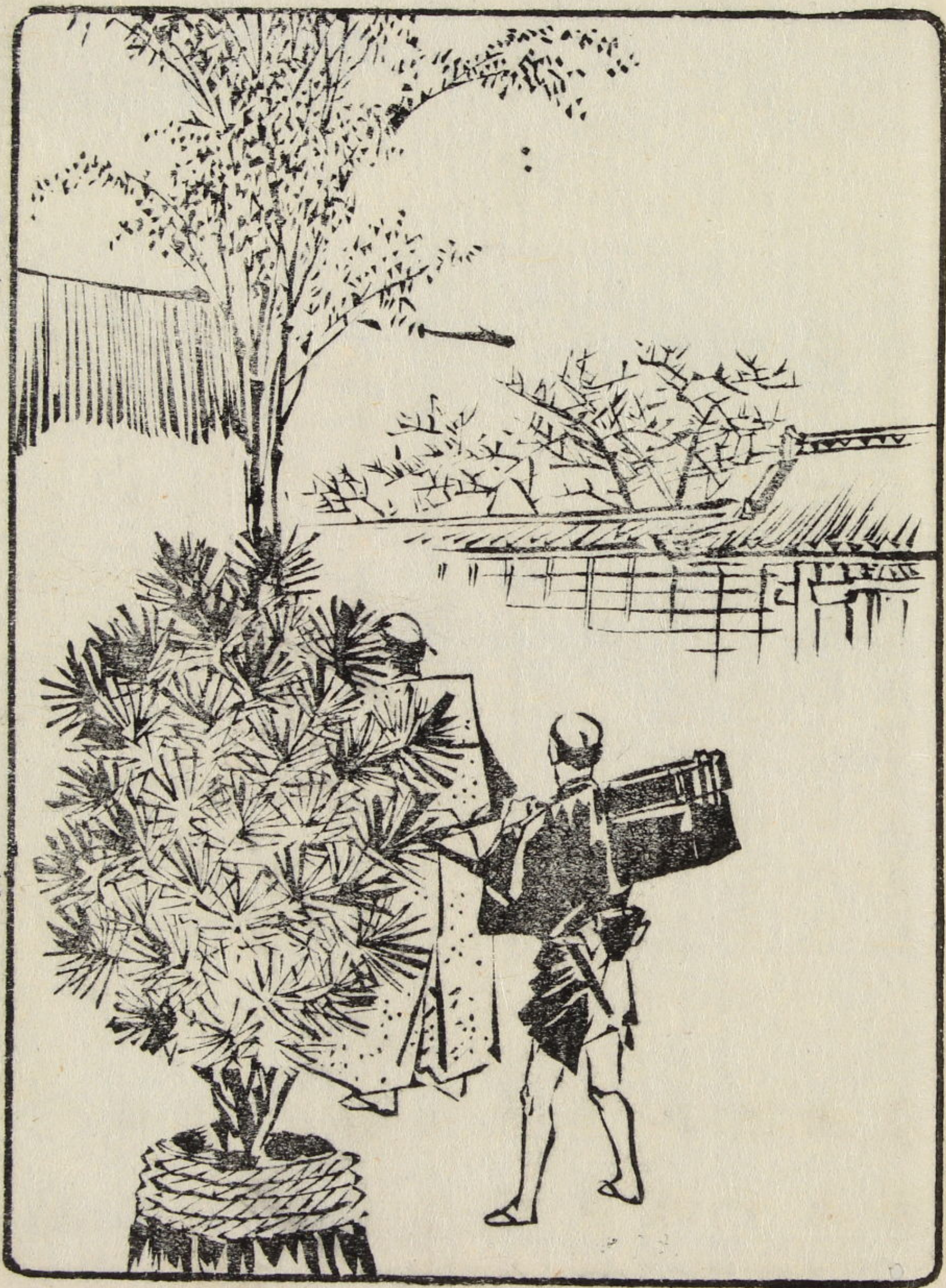
元始の元始元始元始
エチコ 快雅
 元始の元始元始元始
エチコ 雲臺

晴伊

晴伊の晴伊晴伊晴伊
エチコ 静和
 晴伊の晴伊晴伊晴伊
エチコ 雲臺

二羽の鶉
 四羽の鶉
 二羽の鶉

梅年 霞香女 機月 雲臺 鳳齋 蕙畝 松月 快雅 静和 永機



○ 春

六

伊勢の
廿五日

白馬市
廿七日

初唐

吉方

招かさり

門松

世様やいせよの御さかひあり

二十日目のまゝなり

一日中御無事二日三日

各々いみじくも御無事

馬士の初唐の御無事

修りし人々を御無事

子に御無事人々を御無事

月夜城の御無事

御無事御無事

各々の御無事

門松の御無事

エチ

イハシロ

エチ

トホクミ

エチコ

サト

サト

サト

サト

サト

サト

悟秋

百汲

壯山

静和

指直

藹村

梅岡

巨石

巴郷

可美

對山

春澁

門松の影落たり宵の月 チクコ 一遊
 門松の影にのきくる 雨石
 門松の影にのきくる 梅仙
 門松の影にのきくる 旦鶴
 門松の影にのきくる 竹葉
 門松の影にのきくる 山邦
 門松の影にのきくる 木寶
 門松の影にのきくる 素直
 門松の影にのきくる 五風
 門松の影にのきくる 雲臺
 門松の影にのきくる 尚九
 門松の影にのきくる 良和

蓬萊の山月 完鷗
 蓬萊の山月 壽谷
 蓬萊の山月 素粒
 蓬萊の山月 春湖
 蓬萊の山月 素水
 蓬萊の山月 遠塵
 蓬萊の山月 梅年
 蓬萊の山月 可洗
 蓬萊の山月 永機
 蓬萊の山月 九岳
 蓬萊の山月 予雲

小殿系
ごうり

大福
画輔
展種

蓮州	来林	雪朗	袖丸	雪潮	螢花	春湖	螢花	巴郷	永機	大喬	花夕
ヲハリ	エチコ	エチコ						エチコ	サト		
繁城月あけりあけり小殿系	大福子音あけりあけり小殿系	田代や曲りあけりあけり	田代や曲りあけりあけり	惣某に其をあけりあけり	田代や曲りあけりあけり	田代や曲りあけりあけり	大福に先あけりあけり	画輔子初めあけりあけり	画輔の展種あけりあけり	展種あけりあけり	展種あけりあけり

雑茶

年男

竹葉	蛙水	守中	山齋	青峨	里發	喜延	古杉	雀齋	春湖	菊雄	其仙
ムサシ	エン州	エチコ	ムサシ	ムサシ	ムサシ	カ	ヲハリ	ミナ川			スルカ
醒ぬ写りあけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破	展種あけりあけり展種の破

右 畧

素男のり 素石
右 畧 大和のり 鳳
右 畧 の木 玉馬
右 畧 のり 素直
右 畧 のり 山邦
右 畧 のり 蘆水
右 畧 のり 貞賀
右 畧 のり 北翠
右 畧 のり 華谷
右 畧 のり 素直
右 畧 のり 大橋

福寿州

素石
鳳齊
玉馬
素直
山邦
蘆水
貞賀
北翠
華谷
素直
大橋

年 礼

活物子 露
年 礼 春湖
年 礼 の言 鳳樓
年 礼 の言 敏樹
年 礼 の言 五休
年 礼 の言 雨石
年 礼 の言 貞砂
年 礼 の言 梨雪
年 礼 の言 機一
年 礼 の言 素直
年 礼 の言 永機

露啾
春湖
鳳樓
敏樹
五休
雨石
貞砂
梨雪
機一
素直
永機

年 玉

年 礼

編つて

龍吟チクコ 花鸚チクコ 玉馬 蛙水 一大 鷺朝チクコ 永機イハシロ 晋泉イハシロ 玉馬イハシロ 貞山イハシロ 琴松クラマツ 霞江スハツ

序降

鶯雨大河原 孤松スルカ 鳳樓 蘆水 大喬 梅年 茶遊エチコ 孝節エチコ 尚丸スルカ 猶蟻 玉馬

結海老

三つ物奏
共解

○七喜

十



盡忠友

良和の梅の春さへも、
 盡忠友を春の春さへも

碧海

落月

五休の梅は白ひかり
 梅一里ん梅り出ぬ花の

△サシ

涼坪

松

茶城の梅は白ひかり
 梅引の春さへも

エヲコ

雨石

松の梅は白ひかり
 松の梅は白ひかり

フセン

逆風

傀儡師

不尤の梅は白ひかり
 傀儡師の梅は白ひかり

フセン

喜延

冬

素水の梅は白ひかり
 冬場の梅は白ひかり

フセン

永機

破戸弓

名越舟日長白川小後うり

機一

破戸弓に似て少くは葉一箇

玉馬

破戸弓や船くまも山崎川

蓮州

破戸弓や川を流す破戸香

芝水

若羽子

若羽子や鳥に志く字下子

美都

若羽子に葉くまもりく

倭草

遊り君

鏡了月生影も一際り君

鳥牙

その世に想きく澄くや嫁り君

孤松

きー向ける所先子集る嫁り君

連水

河鏡りやもや向いり嫁り君

壯山

林鏡り都更次第集れ嫁り君

竹葉

かきくまも山崎川を流す

鳳齋

手鞠

法軍始
八日

手鞠法く暇に数りみ極るバ

都園

わろくも表取て軍始り丸

予雲

勇中し短式のまもりや軍始

猶蟻

法軍法式のまもりや軍始

完鷗

四法流くまも海軍付け

等栽

式の日や流く遊なも帽の上

永機

若才

若才の膝く屏く編り丸

牧水

若才の膝く屏く編り丸

雨石

若才の膝く屏く編り丸

半山

福成

福成のりくい糸もや壁隣

守中

若く成や壁隣もあかりり

芝水

福葉

福葉のりくい糸もや壁隣

蛙水

三圍

穀の子

ふき

書初

福茶茶やまふまこささけ外ひき

穀の子や後ひきさのむらじ

おしひき秋まかきしみし書

書初や秋ひきまきまきのまの

穀より秋まかきしみし書

いぢ先片強ひきまきまきのま

書初や秋ひきまきまきのま

吹流まかきしみし書

おしひき秋まかきしみし書

これまかきしみし書

袖まかきしみし書

永機

如竹

永機

柳翁

玉馬

鷺朝

涼坪

永機

大喬

雲潮

雲潮

小松川

子

おしひき秋まかきしみし書

梅本屋いひまかきしみし書

大杉まかきしみし書

おしひき秋まかきしみし書

水程まかきしみし書

四五日人まかきしみし書

おしひき秋まかきしみし書

紅隈の秋まかきしみし書

曉柳

二樵

思雲

千哥女

梅宿

詢菫齋

春湖

尚丸

玉馬

猶蟻

永機

蓮州

初巻

左義長

甲

曲きつゝの煙の煙るる煙るる川
左義長や〜〜の空を風吹
き義長や煙をたきし樹の末
左義長や我門をば〜煙る
風中〜雪の〜冬、暮に〜
〜の空、霧あ〜る。甲
切道甲越指す〜其〜松葉槍
兄か〜〜や〜甲の〜
指〜〜るに〜甲
甲あけ〜〜甲
を〜甲
時を〜甲

イニ州
芳盛
芝水
機月
鷺兩
吏登
蓮州
素粒
月得
玉馬
梅伍
梅朋
鬼笑

菊五

粥十五日

齋日

千代輪

白魚

切甲の尾や〜〜人三の月
菊玉や花を雪の末〜
粥杖や〜甲
〜の〜の〜
海少は〜
〜
白魚を〜
白魚子細の〜
〜
白魚の〜
白魚や〜

梅年
涼坪
永機
快雅
茶城
鳥牙
對几
芳林
機春
竹葉
遊甫
不尤

空梅

空梅や雪のふりたる 春の上

スルカ

蓼太

空梅

空梅やまはりの口は梅の先

チクコ

素柳

空梅

空梅やほろけの梅は障子に

チクコ

花庭

空梅

空梅の人の梅は梅の先

チクコ

涼坪

空梅

空梅や雪を平吹たり空梅

チクコ

五雀

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

其水

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

五休

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

士朗

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

快雅

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

壯山

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

柳子

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

桃年

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

朝暉

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

燕村

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

玉馬

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

半山

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

黙平

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

玉山

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

完鷗

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

梅宿

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

玉馬

空梅

空梅の梅は梅の先

チクコ

螢所

世に人のあはれをみるゝ初霞
 子此^チ 海小成る夕、あはれ
 船夕、舟霧、海、河、増、山、うれ
 舟、帆、の、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 山、名、を、か、た、り、お、か、し、く、霞、ド
 庭、一、つ、中、子、泣、み、ま、夕、の、夜、ミ
 舟、の、行、く、ま、り、海、邊、に、夕、霞
 海、言、う、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 霞、の、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 見、極、め、つ、の、息、日、和、や、澄、う、す、ま
 只、霞、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 霞、う、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り

有無香
 晋水
 二 樵
 雪 雀
 月 得
 碧 山
 如 牛
 如 竹
 猶 蟻
 花 夕
 倭 草
 壽 守

船、格、で、名、帆、集、つ、る、霞、の、あ
 川、夕、月、成、跡、う、れ、ま、り、ま、り
 舟、名、を、か、た、り、お、か、し、く、霞、ド
 庭、一、つ、中、子、泣、み、ま、夕、の、夜、ミ
 舟、の、行、く、ま、り、海、邊、に、夕、霞
 海、言、う、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 霞、の、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 見、極、め、つ、の、息、日、和、や、澄、う、す、ま
 只、霞、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り
 霞、う、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、あ、り、ま、り

二 樵
 秦 子
 梅 城
 雪 蕉
 一 水
 全
 貞 山
 玉 馬
 今
 曉 柳
 鳥 牙

後雪
春雪

いちまや〜晴る山極待雪が
雪と雲別待て秋の晴より
虫の羽ふゆ〜つらん夕暮
晴る春はぬれ葉に露に
春〜春の是くの姿はたの雲
春雪の夕日をはつ山の町
後雪や晴るも消るも秋のち
後雪や雪子落ひ〜毎の上
ま〜春をふ〜雪降る春の雪
おらんゆ〜降るも春は雪
春の雪一日降る〜水乃泡
後雪はハ落れぬもはれぬの雪

雨石
薫
竹苗
壽守
晴雲
黙平
菟好
有川
一聲
連鳥
可都良
曉柳

春風
東風

春の志め〜春の海月まぬ〜雪
ま〜春の雪〜雪降る夕〜水
後雪や雪はた〜梅の才
春風や桜枝を春〜春の雪
春風や人春〜梅さ〜
春風は〜吹のぬれ〜雪上
春風や三日歩け生春あ〜
春風や櫻舞〜た〜春風
烏帽子春〜新〜つ〜春の風
春の帆子春〜春の雪〜春の風
春風〜や〜吹〜春の風
春風の海〜春の雪〜春の風

梅枝
一水
桃年
連鳥
青山
三猿
不尤
露歌
可都良
奇英
五秀
思文

梅

ふらふら物漢もやもすは雨
吾もや机をたわはけの雨
之もあや言をたわはけの雨
竹もや、うらもすは雨
常盤もたわはけの雨
柔もたわはけの雨
このまは花の常はけの雨
春雨も花の常はけの雨
琴もたわはけの雨
春の雨も花の常はけの雨
森もや花の常はけの雨
あまも花の常はけの雨

チリコ 梅仙
カ、 山水
如牛月
魯水
思雲
壯山
舉白
牧水
梧堂
一 聲
梅年

ふらふら物漢もやもすは雨
吾もや机をたわはけの雨
之もあや言をたわはけの雨
竹もや、うらもすは雨
常盤もたわはけの雨
柔もたわはけの雨
このまは花の常はけの雨
春雨も花の常はけの雨
琴もたわはけの雨
春の雨も花の常はけの雨
森もや花の常はけの雨
あまも花の常はけの雨

チリコ 鬼笑
七 凡鳥
エチコ 素柳
雪磨
思文
巨石
詢 蕙齋
梧堂
云亭
里 琴
奇 英
可都良

〇ま

よもいづれ花と出づりや 藪の花
まは先ずなきはけふと 梅柳
川筋の梅に似く夕々夢有り
舟月や月夜をせあはぬ梅の花
朝風もさ先際り 梅の花
隙さう子梅は下都 築帯中
木梅や ぬくぬく出た 花梅柳
やあはれ梅季毎あう 咲きたり
宵雲や見え様と 梅の葉了為る
白梅や白ひるくさ 咲きたり
藪垂下り門の豆のこ 梅のち
ぬつりな梅や梅下花はけり

其石
竹良
素陽
全 今
如竹
蓮州
猶蟻
花 晴
全 村
花 月
全

春のまを時雨りぬる梅の花
寒いの不足に言ひ梅の空
翠の梅はむくもたし梅の花
梅前やゆき冬まさる 臺所
梅咲や経道は梅のちり
葉梅や花のちり梅を友
香を散らす梅のちり梅の梅
春の梅はあはぬ梅の花梅は
春のちり梅のちり梅の梅
新しき月日に梅は咲きたり
梅のちり梅のちり梅の梅
春の梅のちり梅の梅

連水
貞砂
一 水
花 夕
梅 仙
一 水
松 翠
松 翠
柳 翁
秋 丸
唱 月

玉衣とて毫髪にけりやゆめの梅
 梅の香は下を色もきき 芳 菜
 春のやうに空もくぬ梅二編
 香も枝もさう梅は成りど
 春もすく算りる梅の香も
 春梅も春もあめくも 華 傘 下
 地境の梅も自ら枝分り 咲
 紅梅はさうさう也 陸 山 殿
 月の影もさうさう也 陸 山 殿
 春もさうさう梅の門
 春は梅も咲きつはさう人のあは
 咲てさうさう梅の香

遊 甫
 松 翠
 壯 山
 玉 馬
 全
 芝 水
 壽 女
 松 民
 竹 堂
 鳳 樓
 和 鶴
 鳳 二

梅の香は下を色もきき 芳 菜
 春のやうに空もくぬ梅二編
 香も枝もさう梅は成りど
 春もすく算りる梅の香も
 春梅も春もあめくも 華 傘 下
 地境の梅も自ら枝分り 咲
 紅梅はさうさう也 陸 山 殿
 月の影もさうさう也 陸 山 殿
 春もさうさう梅の門
 春は梅も咲きつはさう人のあは
 咲てさうさう梅の香

梅 宿
 雪 朗
 雪 裏
 敏 樹
 孤 松
 雪 襄
 石 哉
 予 雲
 竹 華
 木 潤
 守 水
 遠 塵

紅梅

櫻——もはるるや梅の一季
赤梅の香は清きく門の香
小築共煙る心や梅のやと
善るはハ終る物や梅は月夜に
梅の節と春のや原にまきこけり
加茂の水汲るも色梅口より
梅の香に用ひき煙火のやと
春と赤い元所多し梅の香
眼あきとくも梅は下流に
軒をたしとく陸子や梅の香
紅梅はまき少くも梅は下
紅梅や夕小まきとくも梅

エチコ
シ州
エチセン
ムサシ
蝸堂
柳僊
霞流
知雪
壽谷
柳僊
梨雪
青山
文岱
梅年
魯水
霞流

柳

紅梅下あきとくも梅は下
紅梅は大きの紅煙の南より
紅梅や赤い為雪に吹散す
傘のうしろに梅の香
善るはとくも梅は下流に
とくもとくも梅は下流に
吹くは門口廣き柳の香
高梅らん古らん夕の柳
柳中や梅は下流に
善るはとくも梅は下流に
善るはとくも梅は下流に
とくも梅は下流に

サト
淡水
蓮州
永機
予雲
素柳
鬼笑
雲臺
秋九
霞香女
柳子
山水
三千代

楳

日中の柳や人言ふかき
葉ももりの柳や人言ふかき
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ

霞流 連鳥 柏朗 鳳州 一鼎 鬼笑 雪兆 花庭 良和 倭草 芦洲 而汲

土筆

山竹の土筆や人言ふかき
葉ももりの柳や人言ふかき
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ
言のき魚雨成る言ふ柳
鳥のよも山吹も言ふかき
かあつて言ふかき言ふ

快雅 二樵 梅仙 蛙水 芳盛 思文 壽谷 此山 梅年 竹良 雪朗 春許

一七

三十

下結氷結のきけりて高き土草に
 下田月をさす一物に土草に
 高き又高き高き田の土草に九
 の結伸る見たり土草に影法師
 踏まればは梅の影に土草に
 結る高き梅に高き梅に
 梅に結る梅に高き梅に
 結る梅に高き梅に
 結る梅に高き梅に

霞汀 二木 壽谷 猶蟻 梅年 成美 曉柳 永機 晴雲 松月 雪磨 黙平

木の芽

多州

芥

新風秋原のきけりて高き芥に
 清法師に高き高き芥に
 芥に高き芥に高き芥に
 清法師に高き高き芥に
 芥に高き芥に高き芥に
 清法師に高き高き芥に
 芥に高き芥に高き芥に
 清法師に高き高き芥に
 芥に高き芥に高き芥に
 清法師に高き高き芥に

猶蟻 梅誓 文岱 通義 淡湖 吏中 花月 可朝 壽谷 秦子 玉馬 木潤

氷涼

水好水

〇一五

揚口意

軒の揚中経りてみれば水多り
 其石
 一 驚
 逸風
 紅蝶女
 竺仙
 一大
 連水
 詢堯齋
 大喬
 竹堂
 全

葉

号也筑波わたりての空より
 塵風
 号也奈のり東のり向て
 凡子
 号也手暮揚とち長巻のり九
 曉柳
 号也也意のりつる峰のり壯
 全
 号也森の上のりり若杉のり
 一遊
 号也奈の下子奈のり露のり
 驚朝
 号也あつらつる也新しき丸
 快雅
 号也圃下号のり也建仁寺
 九岳
 号也也香け落のり日の輝
 松翠
 号也平揚折る也竹也つるり
 華谷
 号也也すまゝ綴るも松のり
 全
 号也也まゝのりもくぬ若のり去
 螢所

雪也 春之 走の 氷の 屋の 山
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の

壬 齊
雪 朗
竹 良
抱 清
夜 牛
玉 馬
可 都 良
全
鳳 樓
全
善 秀

雪也 春之 走の 氷の 屋の 山
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の
雪也 氷の 氷の 氷の 氷の 氷の

雪 襄
梧 堂
左 丈
花 夕
秋 丸
芦 洲
唱 月
遊 甫
也 足
雲 臺
烟 扇
米 山



辨
奠

〇十五

三十四

辨
奠

初
年

約
有

花弟
 收之
 遠塵
 春江
 三奏
 里發
 鳳二
 素更
 青城
 鶯雨
 涼坪
 木寶

花弟
 收之
 遠塵
 春江
 三奏
 里發
 鳳二
 素更
 青城
 鶯雨
 涼坪
 木寶

涅槃

涅槃の心は空しく涅槃の日は
今も心は涅槃の心は空しく
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は
涅槃の心は空しく涅槃の日は

涼坪 枝玉女 朝暉 聽雨 玉馬 丹霞 蛙水 春詩 雪主 尚九 富水 永機

猿塔



猿塔

茶の
供

西行忌

重
解

解

吹うれ舞々 障の葉に添ふ西行忌
指を又修の白しや茶種のみ供
お伴子懐りのまじふ茶味
海より時々五尾や西行忌
松ありう茶好くく西行忌
不二坂えぬ日くくみま水西行忌
松たぐ物好くく西行忌
西行忌懐いほり茶味くく
重解く仲中川せり茶味
お母もきまたり富士の豊男

三月ノ部

人の氣は布んるを解く

悟秋 かつ雄 永機 春湖 其仙 千里 玉馬 永機 曉臺 螢花 五濟

ほ乳くくきくく解くの解く
嬉しき子解く 笑顔やとく解く
高き高にふく向きく解く
世道能く人々のまきく 銭解
めくくは二ツ古くく 解く
と母火はよ家におく 解く
くくくくくくくくく 解く
くくくくくくくくく 解く
くくくくくくくくく 解く
くくくくくくくくく 解く
くくくくくくくくく 解く
くくくくくくくくく 解く

曉柳 唱月 牧水 逸風 孝節 一遊 雪蕉 素柳 梨雪 雪雀 言海 山水

吉世の
備前
白 酒

出 代

森きぬや ちりちり 鶴は 歌
 博し 身を 盡し たるや 鶴の ちり
 ちり 花を 尽し たる 柳 餅 所 見
 ちり 酒や 始に ちり ちり 玉 拭 巾
 白 酒や 扇 ちり ちり ちり 扇 巾
 ちり 酒や 餅 巾 ちり ちり 親 心
 出代 ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 の ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 の ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 ちり ちり ちり ちり 鏡 邊
 出代 ちり ちり ちり ちり 鏡 邊

霞 香 女
 華 谷
 永 機
 柳 僊
 蓮 州
 山 邦
 鼠 肝
 一 水
 唱 月
 常 水
 貞 山
 全

務
合



〇一七

三十七

碧合

梳

曲水

秋野

蒲公

壽守

此代の此處なる事なるに

傍野やもくうらみなき野の中

傍野やもく井もなき野の中

傍野やもく梳もくうらみなき

梳り手城うけおむる也二日月

曲水や岸の梳もくうらみなき

秋野や花は秋もくうらみなき

蒲公は城もくうらみなき下葉

蒲公は城もくうらみなき

蒲公は城もくうらみなき

蒲公は城もくうらみなき

蒲公は城もくうらみなき

米山

碧海

猶蟻

收之

二樵

枝王女

袖九

不尤

雪朗

蛙水

貞砂

壽守

芥刪

梅宿

玉馬

一鷺

梅宿

唱月

魯水

竹裏

淡湖

華谷

梧堂

一遊

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

ちきんうらみ別條なる事なるに

二月聖水原



せんまゝ

二月聖水原

聖山燒

山早ふ

田畑打

接木

初雪

せんまゝいりまき世傳山亦面多し

水原也月山岳綿る松乃冬

山燒也市山に立る一ツ之麻

志初く降や燒也の表は雨

汐風越る片々多や浦の山

畑打やまはつとるぬ秋也人

畑も古は見えぬ山もなき廣野に

溝も多しおとる門の島は

打や畑も月を指す砂も如

表も大さく表もくぬ接木也

身はくも紅人の功若此接木也

初雪也産るに砂も根も雨

花弟

永機

白雄

喜延

青曉

稻所

蘆水

牧水

竹香

一茶

梅誓

桃李

西 丑
京 子

初 垣
維 子

初垣也生始吟下程多其伸
維多啼也幽子也其豆の月
相ちうに折をちあつや程の維多
きーもやるの色除る、程始而
券ー唱也日初月第一の去
維多啼也掌始山の程々一と
磯山や程始維子の元々々啼
維多啼也法杖、うー小松系
打始り程々返すもさす川
并割と吉にをのく維多う丸
久ーあう程始程の維多始程
山相也程始さーうー維多の程

ムサシ

不尤 朶橋 藹村 梅仙 桃年 朝暉 一月洲 一遊 羊山 機月 花夕 暮牛

スルカ

雲 雀

初限り維多啼まや程始
維多啼のうりのあつや町あま
水不始程流々程子の始程
おのの才杖持る程あう程のきー
向へのもさ始程思家やまー程始
吟きー程始程うささうや程の空
多に吟を、あまさすすの目もとじ
吟くすさの程の程のくや揚雲雀
多杖あつやんああささささささ
何程始程と程のさささささささ
程始也程始ささ福以程始程雀
程始ささあつやささささささ

エニ州

筑三池

雪松 竹良 晴月 舞中 淡湖 吳仙 永機 梅仙 秋丸 碧海 唱月 春許

雀

晴月
 來杖
 芝水
 薰
 曉柳
 貞山
 雪磨
 淡湖
 袖丸
 半山
 喜延
 花月

雀
 雀
 雀
 雀
 雀
 雀
 雀
 雀
 雀
 雀

鳥

連水
 桃年
 機一
 竹謠
 雪潮
 機春
 永機
 雪潮
 梧堂
 晋泉
 思雪
 醉甫

乙鳥

春水

乙名也上子に好る 船め新
橋城もやうらむわ 伊の橋もくも
乙名也分果のくわ 古名店
清く其も子方名く 田は乙名也
此乃の虫博にき息 乙名也
乙名也や名く 乙名也
一里く 踏め糸を乙名也
一様く 乙名也
左友も乙名也 乙名也
此も 乙名也
乙名也 乙名也
乙名也 乙名也

林 格
聽 雨
猶 蟻
遊 甫
其 仙
碧 海
詢 薨齋
素 更
指 直
詢 薨齋
步 月
雲 朗

シ州

チクコ

春の山

佐保姫

中平の山く 水も 神く 春の水
勢は 里く 付く 春く 春の水
林も 山に 春く 春の水
初く 春く 春く 春の水
水も 山に 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水
春の山く 春く 春く 春の水

倭 草
快 雅
通 義
竹 茁
螢 所
春 澍
正 我
可 成
千 里
方 水
淡 湖
山 朗

〇七

四十二

△サシ

まの月
終の月

海を航して暮らさるる春の山 上
山安ふ日もおれおのふまき
何付て耳なりしは菊のいろ
佐保姫や暮る、終のりも春
佐保姫は向ふ終の月 終の月
佐保姫やあつらひしは春の
佐保姫の暮るはけの春の出来
佐保姫はけのけのけのけのけの
さあ娘の暮るはけのけのけのけの
佐保姫の暮るはけのけのけのけの
けのけのけのけのけのけのけの

倭草 此鼎 松月 春湖 魯水 竹香 春許 素月 雪潮 竹華 機春 川漲

カ、
トホシ三
チクコ

おあろ

夕暮の暮らさるる春の山
海を航して暮らさるる春の山
山安ふ日もおれおのふまき
何付て耳なりしは菊のいろ
佐保姫や暮る、終のりも春
佐保姫は向ふ終の月 終の月
佐保姫やあつらひしは春の
佐保姫の暮るはけの春の出来
佐保姫はけのけのけのけのけの
さあ娘の暮るはけのけのけのけの
佐保姫の暮るはけのけのけのけの
けのけのけのけのけのけのけの

連鳥 左丈 二樵 涼風 喜延 思文 雪朗 保年 此山 山水 一大 雨石

エチコ

垣のほとり香の如や
 物の中は未かもある
 田舎の戸もくさくさ
 赤くさくさくさ
 山里や籠りて暮す
 此のまはれ木の子
 舟といふは舟も舟も
 舟といふは舟も舟も
 舟といふは舟も舟も
 舟といふは舟も舟も
 舟といふは舟も舟も

正義
 正童
 古梁
 竹哥
 鳥牙
 素直
 清川
 機一
 永享
 梅雅
 曉柳
 都園

チクコ

スルカ

サト

長閑

行着る下をの下
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流
 花の流

奇英
 霞流
 花弟
 欽宇
 一聲
 鶯雨
 梅年
 淡湖
 不尤
 正我
 雪襄
 山水

チクコ

のこしはの産ふりといや水の河
 古尾正
 史の事なり振ひるまきと書来あり
 長栄さつといふ海に後より丸
 長栄さつといふ先の方の出入り
 人とも海幸も書来い 畑のいり
 書来さつと富士城志向結一軒家
 工千コ
 水さ日おわをれおわ水の内
 羽洲
 穂ふれ口の粒おまおりいり
 竹香
 水さ日や勢をいりて枝の結
 孝節
 書来人 穂さ日おりいり 穂の穂
 螢所
 水さ日おりいり 穂の穂
 環水
 水さ日おりいり 穂の穂
 壯山

水さ日
書通

水さ日おりいり 穂の穂
 正我
 水さ日おりいり 穂の穂
 一歩
 水さ日おりいり 穂の穂
 善秀
 水さ日おりいり 穂の穂
 貞雄
 水さ日おりいり 穂の穂
 春澣
 水さ日おりいり 穂の穂
 如牛
 水さ日おりいり 穂の穂
 機春
 水さ日おりいり 穂の穂
 竹良
 水さ日おりいり 穂の穂
 湖十
 水さ日おりいり 穂の穂
 小谷

陽実
廉

○一喜

四十五

二 世
 工千コ
 小 湖 竹 機 如 春 貞 善 一 正 花 壽
 谷 十 良 春 牛 澣 雄 秀 步 我 庭 守

岐

陽春の夢をみる 播の歌
陽春は向ふまへ 筑波の
陽春の塔をのぞく 弦の音
陽春のうらみ 見よ 細の端
陽春の 足つとく ちよと 家系
陽春の 肩に 羽衣を 舞ひ
陽春の 抱ひ 木り 柳の上
陽春の 志を みる 北の 岨
陽春の 掃陰 仕置る 庭歩り
陽春の 砂に 月 清り 夕の 色
陽春の 海邊 上る 舟の 影
陽春の 舟を みる 如く 舟の 影

下
廿一
竹 香 聲

大坂

朝 暉
聽 雨
奇 英
玉 馬
露 香
竹 蕙
玉 馬
機 月
袖 丸
山 邦

百千

陽春の 夢を みる 播の 歌
陽春は 向ふ まへ 筑波 の
陽春の 塔を のぞく 弦の 音
陽春の うらみ 見よ 細の 端
陽春の 足つ とく ちよ と 家系
陽春の 肩に 羽衣 を 舞ひ
陽春の 抱ひ 木り 柳の 上
陽春の 志を みる 北の 岨
陽春の 掃陰 仕置る 庭歩り
陽春の 砂に 月 清り 夕の 色
陽春の 海邊 上る 舟の 影
陽春の 舟を みる 如く 舟の 影

善 秀
蓮 州
等 裁
升 六
里 發
春 許
永 機
梅 宿
宇 山
關 更
對 几
玉 馬

陽子
新
陽子
陽子

遊香坊



遊香坊

遊

涼坪の
 永機の
 鶏口の
 五濟の
 大喬の
 三千代の
 龍吟の
 梅朋の
 春遊の
 花庭の
 柳翁の
 此鼎の

ムサシ

涼坪
 永機
 鶏口
 五濟
 大喬
 三千代
 龍吟
 梅朋
 春遊
 花庭
 柳翁
 此鼎

蝶

初舞るとはけの象つゝ蝶可也
行蝶の成る面白くも蝶
菊の香に惹かれし蝶の舞
西の空を渡る蝶の舞
蝶を喰ふと信じて居る蝶
菊の香に惹かれし蝶の舞
西の空を渡る蝶の舞
蝶を喰ふと信じて居る蝶
菊の香に惹かれし蝶の舞
西の空を渡る蝶の舞
蝶を喰ふと信じて居る蝶

泰嘉 貞山 柳僊 晋泉 奇英 淡湖 青山 竹華 枝玉女 梨雪 竹良 晋泉

生垣の月を渡る蝶の舞
市井の空を渡る蝶の舞
初舞るとはけの象つゝ蝶可也
行蝶の成る面白くも蝶
菊の香に惹かれし蝶の舞
西の空を渡る蝶の舞
蝶を喰ふと信じて居る蝶
菊の香に惹かれし蝶の舞
西の空を渡る蝶の舞
蝶を喰ふと信じて居る蝶

螢所 其仙 鶯朝 思雪 機月 全 方水 素直 猶蟻 梅伍 機一

田 堀

疎のちりくあり 粧く 晒 布
際 籠 ちる ちる あり 粧 け ち け の け け け
堀 の 羽 あり あり あり あり あり あり あり
其 の ち け け け け け け け け け け け け
相 違 け け け け け け け け け け け け
以 け け け け け け け け け け け け
崎 け け け け け け け け け け け け
長 け け け け け け け け け け け け
若 け け け け け け け け け け け け
田 け け け け け け け け け け け け
廣 け け け け け け け け け け け け
新 け け け け け け け け け け け け

柳 僊 唱 月 遊 甫 文 路 鬼 笑 思 文 晴 月 文 岱 可 金 花 晴 梅 宿 芦 洲

塔

其 の 意 け け け け け け け け け け け け
言 け け け け け け け け け け け け
者 纏 け け け け け け け け け け け け
塔 け け け け け け け け け け け け
塔 け け け け け け け け け け け け
昔 け け け け け け け け け け け け
若 け け け け け け け け け け け け
梅 け け け け け け け け け け け け
登 け け け け け け け け け け け け
子 盤 け け け け け け け け け け け け
男 け け け け け け け け け け け け
危 け け け け け け け け け け け け

三 猿 千 里 袖 九 巴 郷 抱 清 蓮 州 素 朴 巨 石 涼 風 可 堂 應 波 春 許

峴

竹 解

○ 上 考

彼岸

切口に於て色係し 子に解
中日の彼岸梅子 珠敷の香
喜のりたる 新に 陽春の彼岸
そと然るを 彼岸の入り丸
唐よりたつた 彼岸梅か
持路は梅梅 心も 彼岸
佛より 宣ひき 彼岸ささるか
又持きし 自に 融や 人丸忌
花折り 花は 多し 人丸忌
人丸忌 花は 多し 人丸忌
と 梅子 多し 人丸忌
人丸忌 言ひ 多し 人丸忌

梨雪 雪主 等栽 遊甫 壽谷 芳盛 方水 淳了 永機 玉馬 猶蟻 雪潮

人丸忌

壬生海

壬生海



清歌供
香噴

其角忌
三月三日
正事

其角忌の歌は、
三圍のつを越えたりとる葉は
骨や此の曉九ノ音門也
其角忌也二本松の葉ありとる
よき志はとるき星の音子系

碧海
永機
雪潮
尚九
三猿
方水
永機
詢菴齋
鼠肝
等栽
完鷗
機一

陳生

休哉系
三日

○五十一

其角忌の歌は、
空のつは古き葉は 是 星
四月ノ部
其角忌也二本松の葉ありとる
よき人の宿ありとる陳生
門川の水の強き陳生
少のうねりたる陳生
津國のうねりたる陳生

露香
梅年
春湖
永機
岳輅
梅州
竹葉
其仙
桃年
花晴
永機

五十一

夕子

貝とせ

花

春はよき夕子の海料理
森下りりも亭の柳をぬけ干し
まじりも小舟は横なき夕子これ
名木舟の吹つ貝板をまじり
初巻よむは夕子何降てゆけ
まつち舟をまじりのぬき夕子の
花舟のまじり夕子のぬき夕子の
花舟のまじり夕子のぬき夕子の
花舟のまじり夕子のぬき夕子の
花舟のまじり夕子のぬき夕子の

チクコ

成雅 一遊 喜延 涼坪 謝蕙齋 大喬 方水 花夕 蓮州 全 云亭 全

夕子



高き草の葉はうらやましくもの中
重なる葉を重なるうらやましくもの中
明極る葉は冷きうらやましくもの中
草七日かきやめぬ草うらやましくもの中
半草の葉は冷きうらやましくもの中
草を焼く夕下のかきうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中

巨石 不尤 且鶴 古遊 竹香 此鼎 全蟻 予雲 松翠 機月 全

草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中
草の葉は冷きうらやましくもの中

芦洲 一水 禾豊 スハカ 素粒 喜寶 半山 五濟 花晴 敏樹 梧堂 素直 壽女

草の石や 眠りしきる 花の 雨
跡を 書法に するや 夢成り
花は 春の 秋の 雨際 春の 意なり
おの 夢 毎 春 作 一人の 息
咲き 夢を 定めて 春に 春に 花
袖の 夢を 花に 春の 花の 花と 春
除くも 春に 春に 春の 春に 春
夢も 夢に 春に 春に 春に 春
夢も 夢に 春に 春に 春に 春
花の 夢を 春に 春に 春に 春
花の 夢を 春に 春に 春に 春
花の 夢を 春に 春に 春に 春

古柳 其石 青曉 思文 全 貞山 全 全 花庭 蟻城 壽守 素朴

夕附の 雨に 春に 春に 春に 春
大空に 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春
春の 夢を 春に 春に 春に 春

三芝 千里 淡水 春許 魯水 思雪 素陽 全 文岱 真海 全

春生いかりの志うはる日如
 待り古や嘆く思ふ山いとく
 此を以てるうまの所四河
 時多法一考しうぬ花子月
 静さや世と一面のふり月
 佐保娘の世と静さや玉篋
 足なく静さや和むまの娘の虫
 とも静さやまの人の所は山
 原のそとをいかに地埋みたり
 旅の物るまのうらまの花
 静さや静さの影まのうらまの橋
 花のそとをいかに地埋みたり

フハリ 古杉
 エン州 蕙畝
 フセン 聴雨
 月池
 機一
 機春
 三千代
 チクコ 雨石
 石哉
 二樵
 全

春生いかりの志うはる日如
 待り古や嘆く思ふ山いとく
 此を以てるうまの所四河
 時多法一考しうぬ花子月
 静さや世と一面のふり月
 佐保娘の世と静さや玉篋
 足なく静さや和むまの娘の虫
 とも静さやまの人の所は山
 原のそとをいかに地埋みたり
 旅の物るまのうらまの花
 静さや静さの影まのうらまの橋
 花のそとをいかに地埋みたり

フハリ 古杉
 エン州 蕙畝
 フセン 聴雨
 月池
 機一
 機春
 三千代
 チクコ 雨石
 石哉
 二樵
 全

揚

あけふやりのけしきごとく日影のほかに
おのゝなる余りもさきのつゆごと
花よりをさきともくむらぐりゆく
春の流城やいづれ花の角り舞
梅垣は出づ舞のよはれ月夜に
静さやふの流城香平のな
夜夜もさきともくむらぐりゆく
山里や花のよはれ月夜の春
是れやふのさきともくむらぐりゆく
花のよはれ月夜の春南田川
舞のよはれ月夜の春山
人のまなこ結ぶいづれや八重桜

全 三 梅 琴 松 全 青 方 青 全 松 翠 全
全 猿 宿 松 全 山 水 山 翠 全 松 翠

人よりさきともくむらぐりゆく川
夕暮のよはれ月夜の春
一ひき先月夜の春さきともくむらぐりゆく
夜夜もさきともくむらぐりゆく
初桜よりやいづれ山路可成
よの樹に雲よりさきともくむらぐりゆく
ぬりよさきともくむらぐりゆく
雨のよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく
春のよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく
あけふのよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく
よのよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく
あけふのよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく
よのよはれ月夜の春さきともくむらぐりゆく

全 連 敲 古 晚 如 可 半 言 雪 全 霞 竹
全 鳥 月 堂 牛 成 山 海 朗 流 堂

エチセン

何一ツ手につゝ魚は様うれ
 出まゝ魚様や山の小守を
 岩もぬやほろろ音り水の音
 噴きく花のやうに散らさるゝ
 川うら川越おろろの様や
 水着を水着の麻や初さるゝ
 彫れの楊柳に替へしゝ様
 人さるゝの離道行きさるゝ
 ぬらゝ少は様うろ様う南
 風はねりろねろろ音やお様
 薄月や様の奥に灯のともり
 まさるゝ曉あけろろ 初様

通義
 文岱
 一歩
 機月
 全
 素直
 梅幸
 孝節
 猶蟻
 竹譚
 碧海
 連鳥

本様

厚朴系
 引産
 順の筆
 板芸忌
 表き城踏

あり仕舞様は流やねろの雨
 多きる道下様は節り一庭あど
 香りりゆき本立屋連や厚朴の香
 引産の流や月夜のはる星り
 引産付るや夕暮り産の香
 産引くおろろ音は流の音
 引産りねはおろろ音の和ら
 水着は流にそよ一川の峰
 香入り子踏ぬ日をぬりうら
 音もよに足向のやうに順の筆
 ありに系ゆりよよ板芸忌
 薄月夜人さるゝ表き城踏り

鬼笑
 梅年
 涼坪
 芝水
 袖丸
 竹莖
 清川
 竹葉
 霞汀
 清川
 永機
 半山

ナクコ

〇末



山の峰

〇

エチコ

山の峰
のりお
るみり

春の山
 晴月
 雪潮
 全
 竹香
 魯水
 月歩
 霞汀
 五濟
 桃齋
 三芝
 遠塵
 千慶

々

五十九

ムサシ

春の暮

春の宵

別業

山より山に葉さきくもるは海

春の暮は終るは夕の夕より

春は夜や暮さきくもるは雨の陣

春はとくしきもさくは春の宵

陽の暎に暮の香はあや春の宵

遠のくは月をみても春の宵

踏まはる雨にわかぬは春の宵

あまのくは竹の影を別業

はるははるは終るは春の暮

春のやまの影はさくは春の暮

晴天やまの影はさくは春の暮

旅人よあはれはるは春の暮

連鳥

巨石

一聲

玉馬

淡湖

抱清

而汲

斧剛

碧海

涼風

玉馬

花道

麦熟

海棠

梨の果

山吹

連翹

辛夷

朝風やあはれはるは春の暮

一羽の一度は春の暮

田舎の如く春の暮

海棠やあはれはるは春の暮

梨は果を散るは春の暮

山吹やあはれはるは春の暮

山吹やあはれはるは春の暮

連翹やあはれはるは春の暮

連翹やあはれはるは春の暮

連翹やあはれはるは春の暮

連翹やあはれはるは春の暮

言海

霞香女

永機

一步

玉馬

不尤

淡湖

魯水

袖丸

竹堂

蓮州

永機

春

六十

席杖

席杖の隙をさへくさるる富く丸

玉馬

菊根分

菊根分よたれを菊の根分

半山

了

了の如瀧路の如く人梅發百

十里

了

了の如瀧路の中法を明通家

如牛

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

一遊

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

金羅

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

螢花

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

五濟

山葵

山葵の如く念をうの難巻

義峰

杉菜

杉菜の如く念をうの難巻

巢兆

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

千里

四第

種荷

種荷の如く念をうの難巻

華谷

苗代

苗代の如く念をうの難巻

自唱

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

五濟

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

言海

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

雨石

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

雪囊

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

碧海

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

猶蟻

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

春澁

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

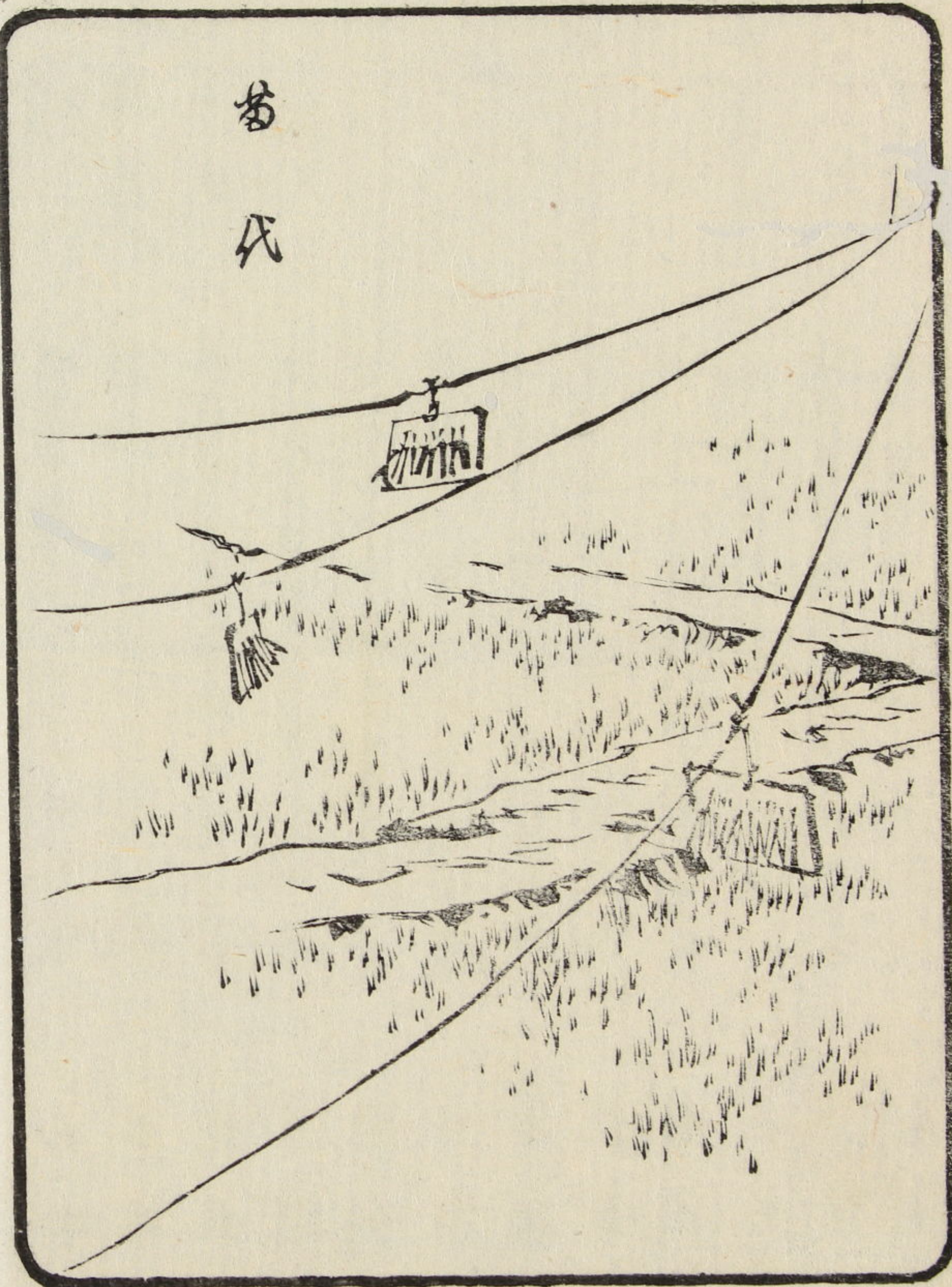
月渚

了

了の如瀧路の如く念をうの難巻

春湖

苗代



峰

半路より八百屋を過ぎ小松村
登所也路より別荘に在り

永機 猶蟻

蚕

此我峰の何れを種ぬるものか
きりきりといわたりて蜂の如
蚕場哉是れをいふははら

碧海 如菊

山

細い人月撞い去休むる
一日の月影のふらふら
湖一町の月の城を築く

雲臺 春湖

小

池

清川

きりきりといわたりて蜂の如
池及び小松に在りては
五秀

牧水 云亭

鹿



六

六十三

初餅

柳籠

飯坊

馬刀

蘇

鹿子よりくち握りし小餅は
 自云く蘇を餅に小餅より丸
 波人々餅やとくしつもの
 初餅や餅より元月夕日丸
 初餅や餅より蘇餅に蘇餅
 ちと若の古葉ありし春餅
 みより餅を餅に餅に餅
 飯坊や飯坊に餅に餅
 飯坊より古葉餅のちと餅
 馬刀の餅に餅に餅に餅
 蘇餅の餅に餅に餅に餅
 蘇餅の餅に餅に餅に餅

ヲハリ

貞砂
 完鷗
 碧海
 猶蟻
 良和
 春湖
 碧海
 霞汀
 九岳
 予雲
 霞汀

子 麻	菴 角	淨 佛	佛 生 舍	不 出 堂
あし相や藤ののこしー力升	きりぬやうしむるや藤の正	そつろくや重さやう之藤ー角	本からけりけを結のそ子之麻	明梨のわをれいさうーまの菴
島海城の日にるまぬ子み麻	そりぬあまの世ま出そ佛生舍	重さうに産為さうー佛	淨佛のそ難のそけまぬ	山里年終屋出張そ仏生舍
於此を色そそそ所違まそ堂	家少五箇法ふ美家	そ内堂		
思雪	指直	雲潮	如竹	玉馬
晴月	貞賀	竹良	碧海	喜延
應波	千里			

子 因 子 十 三 年 古 法	菴 搗	種 芽	種 芽	菴 搗
あそろかち系城のそ藤のそまそ	明古と不致そそーれ藤法そ	城のそそ種そまのそやそ所そ	清代たれや大そ人のそ芽の種	種芽や市にぬるけハ極珍
不女のゆをぬーそそそそ	鍾奏のそるやゆあまそ葉つそ時	葉は味いそーゆそ菴搗男うれ	非時そ葉そ加減何そ嬉娘が	人のそ法そそ菴のそ芽たそ替
葉搗のそそそそそー藤の所	葉法のそそそそ藤のそ			
守中	鶯雨	鼠肝	静和	二光
梅宿	貞砂	桃年	雪潮	聽雨
松月	玉馬			

六十四

六十四

歌集

歌集や勝子の遠山四巻を
仕舞たる歌下り留まれば
歌の宮もあはまいつくや
船の下りぬきき一巻也
春の歌の向うもまき
り春の水剣澄は鏡の
春のり深きまきり小
約春の目のり先の深
春のり春の島へ舟の
り春を見あはさる方
行春の市にやあはる
如茂川也二瀬子あはる

嘯月
三千代
雪潮
素柳
永機
桃年
不尤
二樵
鬼笑
凡子
五秀
梅宿

行春

夏隣

夕月也春の島は柳
水月をえんそそ春
船のり春の島へ舟の
友を約するやそそ
船の美あはるそそ
兄心也夏隣も春の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の

柳翠
青山
梅年
予雲
玉馬
一雄
言海
雪潮
羊山
蓮州
方水
可都良

春深歌

春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の
春のり春の島へ舟の

チクコ

發句五百題 春之卷 終

あふち

秋の晴る日梅子色も春の香
又けぬ花屋敷にゆくも春の香
春の日は城のくもさる 藤袴が
春をたれや西へよまひく 降る
西へゆくかき梅のけり春の波
春の朝のさすや水屋の梅枝
春の破卵のさけの醒さともや
春のくもさるもあけの春の朝
春のくもさるもあけの春の朝

不尤 秋九 梅幸 機一 鬼笑 一鼎 連鳥 抱清 雪主

子子



